

平成 27 年度 事業シート

第5次廿日市市総合計画（後期基本計画）

基 本 目 標 1 健やかな暮らしを支え、安全で快適に暮らせるはつかいち
政 策 目 標 2 恵まれた環境を未来につなぐまちに
重 点 的 取 組 1 次世代に引き継ぐ地球環境を守る

担当課名		環境産業部 環境政策課	
予算科目	予 算	01	一般会計
	款	04	衛生費
	項	01	保健衛生費
	目	06	環境保全対策費

事業名	環境都市創造事業 (ラムサール条約登録湿地利活用推進事業)	事業開始年度	平成 25 年度
		根拠法令 条例 個別計画等	ラムサール条約 宮島ラムサール条約連絡協議 会設置要綱

1 事業の目的、意図

目的	【対象】誰の(何の)ために	【目指す姿・意図】(いつまでに、どういう状態に)
	- 宮島来島者 - 廿日市市内学生	宮島がラムサール条約に登録され、自然環境に恵まれた島であることが国際的に認められた。そうした宮島の自然環境を周知し、また学生を対象とした講座を開講し、自然環境の大切さを理解してもらい、貴重な自然環境を次世代に引き継ぐことを目的とする。

2 事業の実施主体・関係団体・役割

実施主体	市役所(職員)の役割	関係団体(パートナー)	関係団体(パートナー)の役割
宮島ラムサール条約連絡協議会	宮島ラムサール条約連絡協議会事務局としての連絡調整、議事の進行	ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会、環境省、広島県	ミヤジマトンボの個体数の把握、増進及びミヤジマトンボ生息湿地の保全活動

3 平成 27 年度 予算（事業の内容・コスト情報・目標到達見込）

活動内容

(事業の内容)

・宮島ラムサール条約連絡協議会を開催し、これからのあり方や取り組みについて協議をする。

・ラムサール条約登録湿地関係市町村会議に出席し、国内のラムサール条約登録自治体の活動や利活用について情報共有をし、ながら、本市のラムサール条約関連事業を展開する。

・島内の清掃活動を実施し、貴重な自然環境の保全を図る。

・学生を対象にした講座を開講し、次世代の子どもたちに自然環境の大切さを学んでもらう。

・宮島の自然環境に関する現状や取組状況などの実態調査を行い、今後の取り組み方針の基礎データとする。

(事業費)

【歳入】

・地域廃棄物対策支援事業補助金

500 千円

【歳出】

・小学生向け環境講座講師等報償費

168 千円

・宮島ラムサール条約連絡協議会委員等交通費

60 千円

・パンフレット・リーフレット増刷費

260 千円

・事務連絡交通費（バスピー）

6 千円

・ラムサール条約登録地における廃棄物運搬委託費

1,000 千円

・宮島自然環境実態調査業務委託費

1,000 千円

・パンフレット翻訳費

183 千円

・ラムサール条約登録湿地調査渡船料

100 千円

・ラムサール条約登録湿地関係市町村会議運営負担金

40 千円

計 2,817 千円

コスト情報（円）

項 目		平成 25 年度決算	平成 26 年度予算	平成 27 年度予算	
財源内訳	直接事業費 A	338,600	4,081,000	2,817,000	
	国庫支出金				
	県支出金		1,000,000	500,000	
	借入金（市債）				
	その他(使用料など)				
	市（市税など）	338,600	3,081,000	2,317,000	
人件費（按分）B		1.00 人 8,486,000	2.10 人 17,873,100	1.00 人 8,649,000	
総事業費（A+B）		8,824,600	21,954,100	11,466,000	
単位換算	①人口（4月1日現在）	117,680 人	117,680 人	117,182 人	
	市民1人当たり	75	187	98	
	②				

到達目標

活動及び成果指標		単位	H25実績値	H26目標値	H27目標値	備考	
活動成果	ラムサール条約特別教室受講者数	人	141	300	360		
	宮島ラムサール条約連絡協議会開催回数	回	2	2	2		
	ラムサール条約特別教室開催校数	校	2	5	6		
	ラムサール条約登録湿地認知度	%	—	—	50		